

Japanese Patent Office
Patent Laying-Open Gazette

Patent Laying-Open No.	2000-81978
Date of Laying-Open:	March 21, 2000
International Class(es):	G06F 9/445 3/06 12/16

(5 pages in all)

Title of the Invention:	DISK DEVICE, DISK DUPLICATING METHOD AND RECORD MEDIUM
Patent Appln. No.	10-265767
Filing Date:	September 4, 1998
Inventor(s):	Shunsuke ISHII
Applicant(s):	NEC Corporation

Comments on Japanese Patent Laying-Open No. 2000-81978

The personal computer is under control of an operating system (OS) so that data transfer is conducted smoothly between respective disc drive apparatuses, as well between each disc drive apparatus and a hard disc drive. In a personal computer equipped with a plurality of disc drives, one of the plurality of disc drive apparatuses is set as the master, functioning as the main disc drive apparatus, and the remaining disc drive apparatuses are set as slaves, functioning as sub-disc drive apparatuses for usage.

Reflecting upgrade of the OS version and the like, the master/slave setting of the disc drive apparatus is changed to carry out smoothly data transfer between each disc drive apparatus and a hard disc drive, as well as between respective disc drive apparatuses. This changeover is effected by a switch.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-81978
(P2000-81978A)

(43)公開日 平成12年3月21日(2000.3.21)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
G 0 6 F 9/445		G 0 6 F 9/06	4 2 0 S
3/06	3 0 4	3/06	3 0 4 B
12/16	3 1 0	12/16	3 1 0 J
		9/06	4 2 0 L

審査請求 有 請求項の数6 F D (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平10-265767

(22)出願日 平成10年9月4日(1998.9.4)

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 石井 俊介

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株
式会社内

(74)代理人 100097113

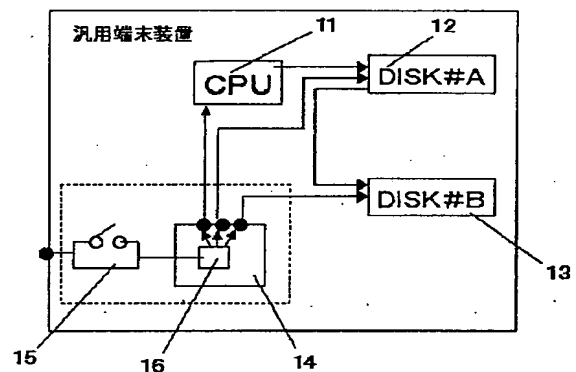
弁理士 堀 城之

(54)【発明の名称】 ディスク装置およびディスクの二重化方法、並びに記録媒体

(57)【要約】

【課題】 二重化されたディスク装置において、ディスクの障害発生時から復旧までの時間を短縮する。

【解決手段】 DISK (#A) 12が破壊された場合、システムを一旦終了させ、再立ち上げ前に、切替スイッチ15をOFFからONに切替えることで、DISK切替制御部14及びコントローラ16の制御により、破壊されていない方のDISK (#B) 13がマスタとなり、破壊された方のDISK (#A) 12がスレーブとなるように制御され、システム登録がなされる。これにより、システムの再立ち上げをすると、マスタであるDISK (#B) 13のIPLによりOSが起動され、システムが立ち上がる。



14 DISK切替制御部
15 切替スイッチ
16 コントローラ

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ディスクを二重化したディスク装置であって、
各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替えるよう指示する指示手段と、

前記指示手段からの指示に応じて、二重化する各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替える切替手段と、
システムの立ち上げ時に、前記切替手段によって切り替えられた各ディスクのマスタとスレーブの關係に基づいて、マスタのディスクから起動プログラムを読み込み、
システムを起動する起動手段とを備えることを特徴とするディスク装置。

【請求項2】 前記起動手段は、ハードウェアの制御プログラムであり、マスタのディスクの IPL により、OS を起動させることを特徴とする請求項1に記載のディスク装置。

【請求項3】 前記ディスクは、ハードディスクであることを特徴とする請求項1に記載のディスク装置。

【請求項4】 前記起動プログラムは、IPL であることを特徴とする請求項1に記載のディスク装置。

【請求項5】 ディスクを二重化するディスクの二重化方法であって、

各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替えるよう指示する指示ステップと、

前記指示ステップにおける指示に応じて、二重化する各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替える切替ステップと、

システムの立ち上げ時に、前記切替ステップにおいて切り替えられた各ディスクのマスタとスレーブの關係に基づいて、マスタのディスクから起動プログラムを読み込み、システムを起動する起動ステップとを備えることを特徴とするディスクの二重化方法。

【請求項6】 請求項5に記載のディスクの二重化方法を実行可能なプログラムを記録したことを特徴とする記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ディスク装置およびディスクの二重化方法、並びに記録媒体に関し、特に、二重化されたディスクのマスタとスレーブを切り替えるスイッチを設けることにより、障害発生時、システムの再立ち上げにより容易に復旧することを可能としたディスク装置およびディスクの二重化方法、並びに記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、CPU (Central Processing Unit)、及び、ハードディスク (以下、DISK と記載する) を有する汎用端末装置においては、DISK の二重化を、ソフトウェアによって行っていた。そのため、図4に示すように、DISK

(#0) 2 に記憶されている OS (Operating System) 部、或いはデータ部の少なくともいずれかの内容が破壊された場合、再立ち上げによって、ハードウェア (CPU1) は、制御プログラム (ファームウェア) の制御下、DISK (#0) 2 の IPL (Initial Program Loader) 部を見に行き、OS 部又はデータ部の内容が破壊されていることを検出したとき、次に、DISK (#1) 3 の IPL 部を見て、OS を起動し、復旧するという手順となっていた。

【0003】即ち、従来は、CPU1、DISK (#0) 2、DISK (#1) 3 を有する汎用端末においては、DISK の二重化を実施していた。DISK の二重化とは、DISK (#0) 2 のストラップスイッチ #0、及び DISK (#1) 3 のストラップスイッチ #1 を用いて、マスタが DISK (#0) 2 となり、スレーブが DISK (#1) 3 となるように設定し、システム登録した場合において、CPU1 の命令により、OS 及びデータが、DISK (#0) 2 から DISK (#1) 3 へ同時にコピー (二重化) される機能を言い、システムの信頼性を高める方法の1つである。

【0004】DISK (#0) 2 及び DISK (#1) 3 の内部は、それぞれ IPL 部、OS 部、及びデータ部等から構成されている。IPL 部は、DISK 固有のプログラムの為、二重化はできない。システム POWER-ON すると、ハードウェアの制御プログラム (ファームウェア) は、マスタ DISK (#0) 2 の IPL 部を見に行き、正常であれば、立ち上げ、OS 部を起動し、システム稼働させるという手順で処理が行われる。

【0005】このとき、マスタ DISK (#0) 2 の IPL 部が破壊されていた場合、システムは立ち上がらなくなり、マスター DISK (#0) 2 を新しい DISK と交換するか、或いはスレーブ DISK (#1) 3 がマスタ DISK となるように、ストラップスイッチ (#1) 5 を変更する等の作業を行い、復旧させていた。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の復旧方法では、以下のような問題がある課題があった。即ち、二重化であっても、DISK (#0) 2 の IPL 部まで破壊されると、システム起動はできなくなる。このため、DISK (#0) 2 を新しい DISK と交換するか、又は、DISK (#1) 3 のストラップスイッチ (#1) 5 の設定を変更するしか復旧の手段がなかった。このため、障害発生から復旧まで、かなりの時間を要する場合がある課題があった。

【0007】本発明はこのような状況に鑑みてなされたものであり、二重化されたディスクに障害が発生した時、容易に、かつ迅速に復旧することができるようにするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】請求項 1 に記載のディスク装置は、ディスクを二重化したディスク装置であって、各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替えるよう指示する指示手段と、指示手段からの指示に応じて、二重化する各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替える切替手段と、システムの立ち上げ時に、切替手段によって切り替えられた各ディスクのマスタとスレーブの関係に基づいて、マスタのディスクから起動プログラムを読み込み、システムを起動する起動手段とを備えることを特徴とする。また、起動手段は、ハードウェアの制御プログラムであり、マスタのディスクの IPL により、OS を起動させるようにすることができる。また、ディスクは、ハードディスクであるようにすることができる。また、起動プログラムは、IPL であるようにすることができる。請求項 5 に記載のディスクの二重化方法は、ディスクを二重化するディスクの二重化方法であって、各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替えるよう指示する指示ステップと、指示ステップにおける指示に応じて、二重化する各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替える切替ステップと、システムの立ち上げ時に、切替ステップにおいて切り替えられた各ディスクのマスタとスレーブの関係に基づいて、マスタのディスクから起動プログラムを読み込み、システムを起動する起動ステップとを備えることを特徴とする。請求項 6 に記載の記録媒体は、請求項 5 に記載のディスクの二重化方法を実行可能なプログラムを記録したことを特徴とする。本発明に係るディスク装置およびディスクの二重化方法、並びに記録媒体においては、各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替えるよう指示し、その指示に応じて、二重化する各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替え、システムの立ち上げ時に、切り替えられた各ディスクのマスタとスレーブの関係に基づいて、マスタのディスクから起動プログラムを読み込み、システムを起動する。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明のディスク装置を応用した汎用端末装置の一実施の形態について、図面を参照して詳細に説明する。

【0010】図 1 は、本発明のディスク装置を応用した汎用端末装置の一実施の形態の構成例を示すブロック図である。同図に示すように、汎用端末装置は、CPU (central processing unit) 11 と、CPU 11 によって制御されるマスタ DISK (#A) 12 と、そのスレーブである DISK (#B) 13 と、DISK (#A) 12、及び DISK (#B) 13 の切り替えを制御する DISK 切替制御部 14、及び、切替スイッチ 15 から構成されている。

【0011】図 2 は、DISK (#A) 12 と DISK (#B) 13 の内部の構成例を示している。

【0012】同図に示すように、DISK (#A) 12

の内部は、IPL (Initial Program Loader) 部 21、OS (Operating System) 部 22、及びデータ部 23 等から構成されている。同様に、DISK (#B) 13 の内部は、IPL 部 31、OS 部 32、及びデータ部 33 等から構成されている。

【0013】ここで、IPL とは、ローダプログラムのことであり、図 2 に示すように、システム立ち上げ (POWER-ON) 時に、ハードウェアの制御プログラム (ファームウェア) が、DISK (#A) 12 の IPL 部 21、又は DISK (#B) 13 の IPL 部 31 を見に行き、IPL 部 21、及び IPL 部 31 の少なくともいずれか一方が正常であれば、IPL 部 21 及び IPL 部 31 のうちの正常な方により OS を起動させ、システム稼働させるためのものである。

【0014】次に、図 1 乃至図 3 を参照して、図 1 に示した実施の形態の動作について説明する。本実施の形態においては、図 1 に示したように、DISK 切替スイッチ 15、及び、DISK 切替制御部 14 を新たにシステムに盛り込むようにしている。

【0015】切替スイッチ 15 を OFF (初期設定時) とした場合、図 3 に示すように、DISK (#A) 12 と、DISK (#B) 13 が、マスタ、スレーブの関係となる。一方、切替スイッチ 15 を ON として、一旦 POWER-OFF し、再度 POWER-ON すると、DISK 切替制御部 14 の制御により、DISK (#A) 12 がスレーブ、DISK (#B) 13 がマスタという関係に切り替えられる。

【0016】図 1 の破線部で囲んだ部分 (切替スイッチ 15、DISK 切替制御部 14、コントローラ 16 を含むブロック) において、切替スイッチ 15 と DISK 切替制御部 14 は、制御信号により連動している。さらに、DISK 切替制御部 14 を構成するコントローラ 16 が、切替スイッチ 15 の OFF/ON と連動して、CPU 11、DISK (#0) 12、及び DISK (#1) 13 に切替信号を送出し、DISK (#0) 12 と DISK (#1) 13 のマスター、スレーブの切り替え、及び、システム登録をさせる機能を有している。

【0017】従って、図 1 に示した実施の形態では、破線部で囲んだ部分の切替スイッチ 15、DISK 切替制御部 14、及び、コントローラ 16 を新たに盛り込むことにより、例えば、DISK (#A) 12 が破壊された場合でも、再立ち上げ前に、切替スイッチ 15 を OFF から ON に切替えることにより、DISK 切替制御部 14 及びコントローラ 16 の制御により、破壊されていない方の DISK (#B) 13 がマスタとなり、破壊された方の DISK (#A) 12 がスレーブとなるように制御され、システム登録がなされる。

【0018】これにより、再度システムを立ち上げると、マスタである DISK (#B) 13 から自動的にシ

システムが立ち上がるようになる。

【0019】従って、従来は、DISKの交換や、もう一方のDISK（#B）13の図示せぬストラップスイッチの設定変更等を実施する必要があったが、上記実施の形態においては不要となる。このため、DISK障害から復旧までの時間を大幅に短縮することができるというメリットがある。

【0020】これは、従来、ストラップスイッチ（#0）4はDISK（#0）2の裏側に、また、ストラップスイッチ（#1）5はDISK（#1）3の裏側にそれぞれ設けられていたため、ストラップスイッチ（#1）4、ストラップスイッチ（#1）5の設定を変えるためには、汎用端末装置や、DISK（#0）2、DISK（#1）3を分解しなければならず、時間を要していたのに対して、上記実施の形態においては、切替スイッチ15を汎用端末装置の正面に設けることができ、簡単にマスタ、スレーブの関係を切り替えることができるからである。

【0021】以上説明したように、上記実施の形態を用いることにより、次のような効果を得ることができる。

【0022】第1の効果は、DISK破壊発生時から復旧までの時間を大幅に短縮することができることである。その理由は、図1に示した切替スイッチ15とDISK切替え制御部14を新たに盛り込むことで、例えば、DISK（#A）12が破壊されても、切替スイッチ15をONに切り替えるだけで、図3に示したように、DISK（#A）12とDISK（#B）13のマスタ、スレーブの関係を、DISK切替制御部14の制御により、逆転させることができるからである。

【0023】即ち、従来は、障害発生→POWER-OFF→DISK交換又は破壊されていないDISKのストラップスイッチをマスタに変更→POWER-ON→復旧という手順で復旧を行っていたが、上記実施の形態においては、障害発生→POWER-OFF→切替スイッチを切替（マスタDISKを破壊されていない方に変更）→POWER-ON→復旧という手順で復旧を行うことができる。このように、上記実施の形態では、従来の場合と比較して、障害から復旧までを短時間で行うことができるからである。

【0024】以上のように、上記実施の形態においては、図1に示したように、DISK切替スイッチ15とDISK切替制御部14を盛り込んだことにより、DISK切替スイッチ15をOFF（初期設定時）に切り替えて立ち上げることにより、図3に示すように、DISK（#A）12がマスタとなり、DISK（#B）13がスレーブとなるようにすることができる。一方、切替スイッチ15をONに切り替えて立ち上げることにより、DISK切替制御部14の制御により、この関係を

逆転させることができ、図3に示すように、DISK（#B）13がマスタとなり、DISK（#A）12がスレーブとなるようにすることができる。

【0025】従って、仮に、マスタDISK（#A）12が破壊された場合でも、切替スイッチ15をONに切り替え、DISK（#B）13をマスタにして、再立ち上げを行うことにより、容易に復旧させることができ、障害発生から復旧までの時間短縮を実現することができる。

【0026】なお、上記実施の形態においては、本発明をハードディスク装置に応用する場合について説明したが、他の記録装置にも本発明を適用することができる。

【0027】

【発明の効果】以上の如く、本発明に係るディスク装置およびディスクの二重化方法、並びに記録媒体によれば、各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替えるよう指示し、その指示に応じて、二重化する各ディスクのマスタとスレーブの関係を切り替え、システムの立ち上げ時に、切り替えられた各ディスクのマスタとスレーブの関係に基づいて、マスタのディスクから起動プログラムを読み込み、システムを起動するようにしたので、二重化されたディスクに障害が発生してから復旧までに要する時間を短縮することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のディスク装置の一実施の形態の構成例を示すブロック図である。

【図2】図1のDISK（#A）12とDISK（#B）13の内部の構成例を示す図である。

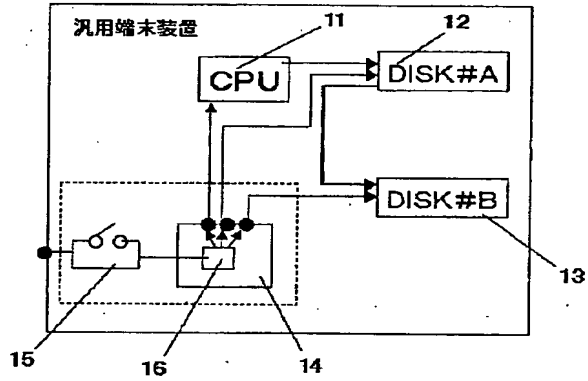
【図3】切替スイッチ15のON/OFFと、DISK（#A）12及びDISK（#B）13のマスタ/スレーブの関係を示す図である。

【図4】従来の二重化されたディスク装置の構成例を示すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 CPU
- 2 DISK#0
- 3 DISK#1
- 4 ストラップスイッチ#0
- 5 ストラップスイッチ#1
- 11 CPU
- 12 DISK#A
- 13 DISK#B
- 14 DISK切替制御部
- 15 切替スイッチ
- 16 コントローラ
- 21, 31 IPL部
- 22, 32 OS部
- 23, 33 データ部

【図 1】

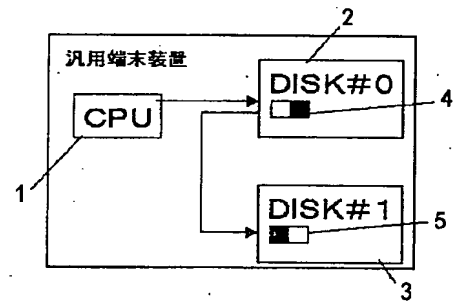


- 14 DISK切替制御部
15 切替スイッチ
16 コントローラ

【図 3】

DISK スイッチ	#A	#B
OFF	マスター	スレーブ
ON	スレーブ	マスター

【図 4】



- 4 ストラップスイッチ #0
5 ストラップスイッチ #1

【図 2】

